

会議名	令和7年度第2回小高小学校・小高中学校のあり方に係る保護者懇談会
日時	令和8年3月8日（日） 10:00 ～ 12:00
場所	おだか認定こども園 遊戯室
参加者（庁内）	教育長、教育委員会事務局長、学校教育課長、学校教育課教育企画担当課長ほか
参加者（庁外）	小高区保護者12世帯 15人 ※オンライン含む

【説明・協議事項】

（１）小高小学校・小高中学校のあり方についての検討プロセスの見直しについて

保護者から、説明や意見交換に機会が不足しているとの意見を受け、当初想定していた検討プロセスの見直しを行ったことから、その内容について説明。

①主要な意見

- プロセスについて、資料が少ないと感じる。
- 「ありたい姿」からやり方を決めるには多くの検討が必要だが、段階を踏んで考えないと、様々な意見が混在してしまい、意見を集約した結果が保護者の考えと異なるものになる恐れがある。これを避けるため、最低でも以下の「三つの段階」を踏むべきと考える。
- ①「目指すべき学校」像について皆で合意する。
- ②今の学校の状態について共通認識を持つ。
- ③その上で、具体的なやり方の話をする。

このプロセスには、保護者だけでなく、地域で育った方や若い人、行政、先生方などの様々な意見を全部テーブルに並べて議論する必要があるが、現状そのためには回数がすごく足りないと感じており、もう少し段階を踏んで進めてほしい。

②質疑応答

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
1	検討準備協議会はどうような人が入っていて、どういうプロセスで選ばれて、どういう協議をしようと思っている会なのか。	メンバーについては合計で11名。地域の代表として小高区行政区長連合会の会長・副会長3名、PTA代表として小高小学校・小高中学校のPTAの会長・副会長の各2名、対象校の通学区域に居住する未就学児保護者の代表としておだか認定こども園の保護者会の会長・副会長、学校代表として小高小学校・小高中学校の校長で構成されている。今後の協議については、皆様からこんな学校にしてほしい等の意見を収集し、そちらを協議会に繋ぎ、小高小学校・小高中学校のあり方を検討する。その結果を保護者の皆様にフィードバックさせていただく。

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
2	意見プロセスの大まかな時間軸の流れはどのくらいで進めるのか考えているか。	時間軸については、ステップ2の協議会での分析の検討の内容、ステップ3の方で保護者へのフィードバックということで意見交換をさせていただく。皆様との意見交換を重要視することを考えており、ステップ7までどのような形で進めるかということは現在調整している。
3	検討協議会にPTAの役員を入れて、当て職で議論、意見集約されるとのことだが、PTA側で、どういうふうに意見集約するのか示されていない。どのように意見が集約されていくのかをきちんと示していただかないと、どういうタイミングでどういう意見をするかの判断に迷うので、教育委員会側でどう対応されるか示してもらえると助かる。	会議での意見集約は現状、各団体に任せているが、自分たちの声が反映されるのか不安に思う声もあると思う。今後は、保護者懇談会や意識調査で直接意見を聞くとともに、PTAの会長・副会長に意見を取りまとめていただくことも大切だと考えている。具体的なやり方については、役員改選の時期も考慮し、今後話し合いながら決めていくための宿題とさせてほしい。
4	ステップ7後の学校のスタートは、いつ頃を目指しているのか。また、協議会委員について、こども園からの参加は2名で間違いないか。	最終的な方針の決定がどのような形によるが、そもそもの方向性をどうするか、という段階なので、新しいものがいつ開校となるかは、その時の状況によると思っている。 また、こども園からの参加は、会長・副会長2名となっている。
5	何年先かわからないことだとすれば、こども園の保護者の方の意見がすごく大事になってくると思う。2人では不足と思うので、追加を検討してほしい。	もし新しい学校との方向性になれば、校舎の改修や学校名、校歌等の検討に3年ほどかかることを考えている。また、協議会では、保護者懇談会で協議したい内容や実施したいアンケートの内容等についてご意見をいただいている。 保護者の皆様の声については、アンケートや、このような話し合いの場で受け止めさせていただき、協議会で一緒に考えさせていただいているため、このメンバーで行う。

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
6	小高においては、今まで教育委員会が取り組んできた統廃合と異なる点があると思っている。小高区は移住してきた保護者が増えていることから、従来の地元の方々が主な合意形成とは質が変化していると思う。そのため、地域の意思決定層と実際に子育てをする保護者の間に温度差があることを懸念している。また、家庭内ごとに集約する形での意見聴取では、回答の属性が偏るという問題がある。市内で生まれ育った方と、今いる保護者が見えている課題や希望は異なっているという前提の下で、意見を集約する工夫が必要と考える。	小高ならではの色々な方の視点が入ってくるため、そういった意見を大切にしたいと思っている。ご意見いただいた部分は宿題とさせていただき、今後、オンラインや懇談会など、ご意見が集まりやすい方法を考えさせてもらいたい。
7	座組については、意見交換会であるなら、事務局と保護者が対面する形でなく、皆で輪になる配置の方が良い。	座席の配置については、オンライン配信の関係がありこのような配置となっている。配置のスタイルについては今後検討したい。また、進め方については、保護者の気持ちが形になったと実感いただけるよう、手順を整理しながら進める。まだ手探りのため、アイデアをいただければと思う。

(2) 保護者意識調査結果から保護者が考える今後の学校のあり方について

《ファシリテーター：教育長》

【知：学びの充実】 【テーマ：外国語教育】

①主要な意見

- 英語をペラペラにしたいわけではないが、高校受験や大学で抵抗がなくなる程度にしてあげたい。
- 将来本格的に英語を勉強したくなったときに、外国でも通用する発音が学べるよう、自分で取得できるような土台だけは早いうちに作っておきたいと思っている。
- 子どもが学校に毎日楽しく通って、英語を楽しく発音し、好きと言ってくれている。こういうところを学校で教えていただけているのはありがたく、今後も続けてほしい。
- えいご発音あそびの講座では、親と一緒にやるのが大事と聞いており、発音あそびのやり方を保護者に共有してもらえれば家でできるので、そのような機会を設けてほしい。
- こども園で英語教育のプログラムを取り組んでもらっているが、小学校・中学校では先生の異動があるため、先生個人の意欲や努力の問題ではなく、仕組みとして語学教育を地域で底上げをしていくことに関しての壁にぶつかっていると感じている。これまで赴任してきた先生が努力して吸収してきたやり方には限界があると感じており、時数等の学校教育の課題もある中で、具体的な仕組みを改善しないと、学校だけでは難しいと思う。

○子どもには、英語教育が嫌になるタイミングをなるべく減らしてあげたいと思っている。文字で覚えた単語と実際聞こえる音との違いは、英語の苦手意識に繋がるとしており、英語教育を発音からアプローチしてもらうと理解に繋がるのでやってほしい。また、学校の特色づくりは必ずしも授業の中でやる必要はないと考えており、例えば、放課後児童クラブを活用して英語教育をプラスアルファで行うような仕組みを作ってもらえれば、先生方の負担を増やさずに、特色を作っていくことができるのではないかなと思う。

○グローバルな世界になっており、仕事で使う公用語も英語になってきている。小さいうちから英語に関わっていれば、上の学校に行った時も抵抗感なく授業を受けられると思うので、認定こども園での取り組みはとても良いと思う。また、「小高ならでは」といったときに、社会と連携できないかなと考えている。例えば、小高ストアに、子どもの教育の一環として英語で商品名を書いておく等すれば、子どもだけでなく、買い物に行った親世代もともに学べるという付加価値がついてくるのではないかなと思う。そうした取り組みにより、魅力を感じた転入者の増加や町の活性化等も期待できる。

②質疑応答

特になし。

【テーマ：探究・プログラミング学習】

①主要な意見

○今後社会の大半のプログラムをAIが書いてくれるようになるだろうとの見込みが立っているが、今のAI技術では、コードが正しいかどうかの判断は人間が必要がある。今後社会の大半のプログラムをAIが書いてくれるようになって、プログラムを理解できるということの需要は低くならないと考えている。また、プログラミング教育の利点はいくつかあるが、物事を効率的に整理するような頭が身につくという良い点がある。これは世の中の普通の仕事とか、日常でも必要なことだと思っており、体感的に学ばせる意味であっても良さそうだと感じている。プログラミングについては、苦手意識を持っている子もいるが、プログラミングは世の中にとってインフラになっていくため、子どもたちをなるべく取りこぼさないように、プログラミングという概念の必要性を教えてあげる必要があると思っている。現状、プログラミングを教えるときは、ロボットを使うことがあるが、日常生活でやっている行動を自動化する、生活を便利にするといったプログラムといった授業が増えると面白いと思っている。また、小高ならではの教育として、中学生や高校生になったら、お店の何かを改善するみたいなプログラムを書いてみるというように、地域課題の解決と結びつけると、自分で考えて行動する探究にも繋がってくると思う。

○既に一部の高校生の間では、AIとの対話やシミュレーション、3Dプリンターの改造など、探究学習そのものみたいなことができており、かなり高度なことを高校生がこなしているという現状がある。そうした高校生は、物事に対する興味があり、それを深掘りしていく中で勉強している。大切なのは高度なこと教えることではなく、興味を持つための入口がたくさんあることだと思う。ただ、プログラミングや探究学習といった、既存のパッケージに引っ張られるのではなく、中学生高校生がやってみたいことを応援する仕組みをどう作るかという観点を持つ必要があると思う。

- 子どもたちが自分たちの興味のあることを見つけて探究するというのを、やり慣れていないと感じている。先程あった興味の選択肢を増やすというのはその通りだと思っており、そのためには、社会や人との接点を増やしていく必要があると感じている。小高ではそれができているし、それが実現できれば、他の地域の学校プロジェクトにも負けない特色のある学校ができると感じている。そのためにどのような人を呼ぶかというのは非常に難しいと思っているが、誰かの考え方が子どもたちの好奇心に繋がることを期待しているし、手のかかると思っていた子が、意外と大人に感化されて興味の扉を開いていくようなことを見たことがあるので、そういうシーンをたくさん作れると良い。
- 英語教育やプログラミング教育のおかげか、子どもが受験で困らない程度の英語力が身につけているのではと感じている。加えて、市が力を入れている海外研修に参加させてもらえるという環境があることや、伝統行事の野馬追で活躍する場が設けられていることから、幅広く学べる学校なのだと卒業を前に改めて感じている。また、南相馬市は他の市町村と比べて就学支援を受けやすいという環境にあり、そうした面でも教育環境が整った地域であると感じている。

②質疑応答

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
1	高校生に、読み取ると英語の発音をしてくれるQRコードを作ってもらい、それを小中学生が使って学ぶというのはどうか。	そうしたアイデアはとても良いと思う。そういうものを今後も小高でやっていくためにはコミュニティスクール（※1）にすべきなのだと思う。

（※1）保護者や地域住民が学校運営に参画できる制度のこと。

【テーマ：体を動かす機会の確保】

①主要な意見

- 部活動について、他中学校と連携した活動の強化を検討いただきたい。例えば、男女比が偏っていたり、人数が少なかったりしたりすることで実施できない部活動について、市内の近い環境にある中学校と連携しながら活動ができないかと思っている。
- 集団登下校について、山村部は難しいかもしれないが、街中だけでもできないか考えたことがある。例えば、地元の行政区と連携しながら、見守り体制を組むことで、仮に毎日ではなくても、集団登下校ができる可能性があるのではないかと。そうすれば、結構な距離を歩くことになり、体力をつけることに繋がってくるのではないかと。

○遠方の人を含めた集団登校については、1ヶ所に集合してもらい、そこから全員で歩くという形で可能だと思っている。そうすれば、体力がつくほか、年下の子をお世話するといった、異年齢の交流による学びにも繋がる。震災以降、送り迎えをしているところではあるが、集団登校ができれば、下の子の面倒を見ながら歩くという勉強にもなるので、学校・認定こども園含めて議論してもらいたい。それによって、リアルな人と人との繋がりを持つことができる。多感な時期にこれを経験しておかないと、将来進学したときや、社会に出たときに打たれ弱い人間になってしまうと思う。そのため、今からでも人間の基礎力ともいえる対人・コミュニティについて、教育の1つに入れてほしい。

○郡山では当時放課後の児童クラブがなく、友達と校庭で遊んだり、山や川で遊んだりという時間があったが、今はそういう放課後に自然と体を動かしていた時間がなくなっており、それをすごく懸念している。

○中学年、高学年で自転車を使えるようになったとき、自転車で登下校して、放課後遊びに行くというような、放課後の時間を充実できるようになると良いと思っている。

○可能であれば、郊外の方へ行って体験や自然学習できれば、体力もつくし、自然の良さを生かすことができる。みらい農業学校等とも連携して何かできたら良い。

○放課後子どもを学童に預けているが、その時間の充実を図っていただきたい。震災以降、子どもだけで遊ばせることに不安がある。大人の見守りがある中で、放課後の時間を有効活用してもらえればとてもありがたい。

【その他】

①主要な意見

○市の事業で子どもの「放課後の過ごし方」と「習い事」の調査を実施している。このような調査を通じて、想像と実状が異なっていること等、色々と考えてくるものがあるので、それらを一度整理しながら意見を出すことで、「これを何とかしてほしい」という共通の考えが出てくるのではないと思う。

○保護者と地域のお年寄りとの間に、子どもの存否についてのギャップがあることを不思議に感じていたが、登下校は送り迎えで、放課後も子どもだけで遊んでいないという状況を聞いてその原因に気がついた。環境的に子どもたちだけでは不安だが、例えば集団で登校する等、子どもたちがいると思ってもらえれば、見守る姿勢もつくと思う。安全な人たちの目に見えるところで、子どもの姿が表に出られる環境があっても良いと感じた。

○児童クラブの先生の話だが、小学校までは児童クラブがあって居場所があるが、中学校に入ったときに居場所がなくなることを懸念されており、そういう場所を作れたら良いと話している。また、放課後児童クラブに通っている子は上下の関係性が作れているが、そうでない子は友達同士や上下の関係を作れていないというところを感じており、そこも今後議論が必要と思っている。

②質疑応答

特になし。

【決定事項・今後の対応など】

いただいた意見については、検討準備協議会へ報告し、適正化の方向性検討の参考とする。